

鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム 2018 開催報告

概要

日時 平成 30 年 9 月 28 日〔金〕 14:00～16:30 会場 鹿児島大学学習交流プラザ 2F 学習交流ホール

総合司会 前田 雅人(本学副学長 法文教育学域教育学系教授 障害学生支援センター長)

開会挨拶 清原 貞夫氏(本学理事 教育担当)

第一部：基調講演「高等教育における合理的配慮とは何か」

講師 村田 淳氏(京都大学 学生総合支援センター 准教授

障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター)

第二部：体験発表「障害のある学生からみた大学生活について」

司会：今村 智佳子氏(本学障害学生支援センター特任助教)

助言：村田 淳氏

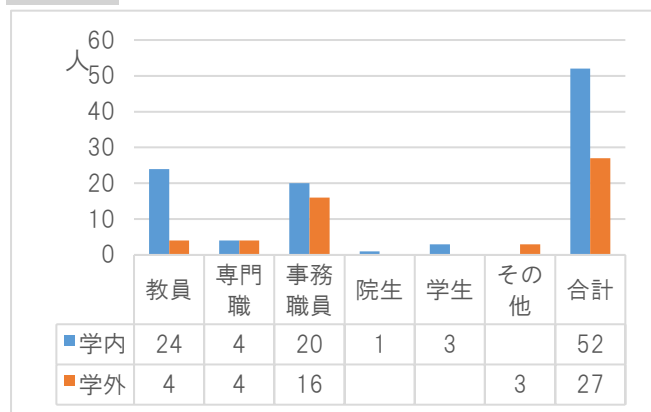
発表者：本学学生

閉会挨拶 前田 雅人

情報保障 富士通 Live Talk 線音源スピーカー

参加人数及びアンケート結果

参加人数



参加人数

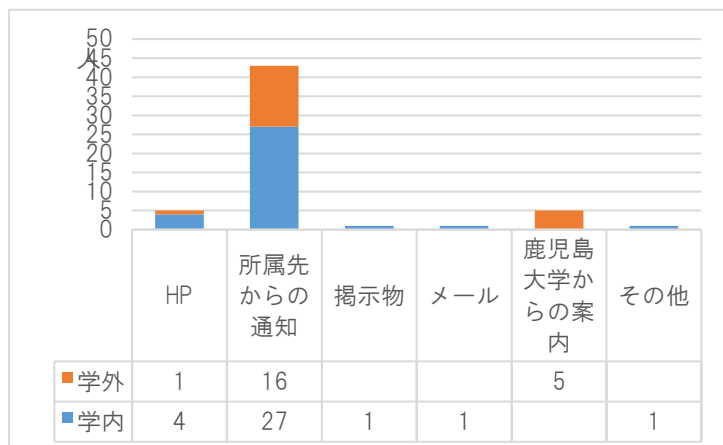
(学内 52 名 学外 27 名 計 79 名)

アンケート回答数

(学内 36 名 学外 22 名 81.48%)

このシンポジウムをどこでお知りになりましたか？

(複数回答)



平成 28 年 4 月より障害者差別解消法が施行され

ましたが、ご存じですか？

	知っている	あまり知らない	知らない	回答なし
学内	28	4	2	2
学外	20	1	1	
合計	48	5	3	2

基調講演の感想をお聞かせ下さい。

・京大での取組概要のみならず、テーマの理解を広め・深める方向での丁寧なお話がうかがえ、大変大切な時間となった。(本学教員)

・本来業務付随・本質変更不可の話が非常に分かりやすく、自身への業務との関連について考えさせられた。(本学教員)

	とても良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	回答なし
学内	23	11	1		1
学外	13	9			
合計	36	20	1	0	1

・大変分かりやすく説明頂き、合理的配慮等の基本的考え方が理解出来た。(本学教員)

・なぜ合理的配慮をする必要があるのか、大学は何をする場であるのか、といった本質的な意義をよく理解しておくことが大切であると感じた。(本学専門職員)

・概要だけでなく、事例の紹介もして頂けたのが良かった。(本学事務職員)

・本質的な部分を分かりやすく話して頂けて、大変良かった。(学外教員)

・合理的配慮とは何をどこまでするのか、判断基準が分からなかったため、大変参考になった。(学外専門職員)

・内容がコンパクトになっていて、とても分かりやすかった。合理的配慮の「配慮」と「accommodation」の違い、人が感じる意味合いの違いが合理的配慮としてなにをするのかという前提において重要になっているというところが、目から鱗だった。調整すると捉えると、気持ちのメンデハールドが下がる気がする。(学外事務職員)

・難しい話を分かりやすく講演していただいた。まだまだ勉強していこうと思う。(学外事務職員)

・支援を受ける方も、負担がかかっていることを今まで意識したことがなかったのだが、講演を聴き、組織にとっても障害のある人にとっても負担の少なくなるベースアップを図る重要性を感じた。(学外事務職員)

体験発表の感想をお聞かせ下さい。

・障害学生支援センターの役割も理解出来たし、援助システムの存在も知ることが出来た。学生もがんばっていることを実感した。(本学教員)

・やはり学生の生の声を聞くことがとても大切だと思った。改めて考えさせられた。(本学教員)

	とても良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	回答なし
学内	28	6			2
学外	17	4			1
合計	45	10	0	0	3

・実際に支援を受けている学生から生の声を聞くことが出来て、貴重な経験ができた。またこのような機会を作って頂きたい。(本学専門職員)

・障害がある学生から具体的な話や考えを聞くことが出来て、大変ためになった。障害学生支援センターの存在意義を改めて認識した。(本学事務職員)

・学生の感想を通じて鹿児島大学での障害学生支援センターの活動等について知ることが出来た。また、障害学生の求めたいことについて考える事ができた。(本学事務職員)

・学生の生の声を聞き、大学が具体的にどのような支援を行っているかがよく分かった。(本学院生)

・学ぶために必要な支援があるのと無いのとでは大きな差だと思った。(学外教員)

・学生の意見を聞くことが出来て、今後の支援に活かしたいと思った。(学外専門職員)

・大学生活をする上での相談窓口を分かりやすく明示する、紹介する必要性を確認できた。(学外事務職員)

・実際に支援を受けている学生の話を聞くことが初めてだったので、とても良かった。過剰な支援を求めたいわけではなく、ただ学びたいだけという言葉は心に残った。(学外事務職員)

障害を有する学生やつまずきのある学生との関わりの中で、困った経験等があればお書き下さい。

- ・なかなか連絡が取れない(返答がない)。何か促しても自己判断でしなかったりする。(センターへの相談など)(本学教員)
- ・大学に出てくることが出来ない。(本学教員)
- ・大学を卒業した後の進路について、就職などが決まった学生も、決まらないまま卒業になった学生も、両方社会での適応や、必要な支援等継続的に受けていけるのか毎回気になるところである。(本学専門職員)
- ・一見つまずきに気付けないような学生の対応が出来ず、支援できなかった。(本学事務職員)
- ・一問一答のような課題は適応できるが、レポート(課題)作成が困難な学生への指示、支援。(学外教員)
- ・障害があると思われる学生と、なかなか連絡がつながらなかったり、障害と申し出がないため、対応をして良いか関わりを勧めることに困ったことがある。(学外事務職員)
- ・学生本人は困難、困り事として感じているが、障害と思っていない。しかし教員が疑いとして、配慮した方が良いから”願い”を作成するよう求めてくる。配慮願いの作成は本人と話し合うので、どう伝えたらと考えたら出来ないこともある。(学外事務職員)

その他ご感想やご意見、今後講演で取り上げて欲しいテーマがありましたら、ご記入下さい。

- ・合理的配慮の事例について、どのようなものがあるかもっとたくさん聞きたい。(本学教員)
- ・フロアとのやりとりがとても役に立った。(本学専門職員)
- ・精神障害(発達障害等)の学生に関する支援について(本学事務職員)
- ・学校の教師に求められるテクニカルスタンダードも明らかにする必要があると思った。インクルーシブナ教育システムが広がりつつある中、小中学校でも参考になるシンポジウムであった。(本学院生)
- ・遠方から参加したが、内容がとても良かった。大学に戻り情報共有したい。(学外事務職員)

写真

開会の挨拶



講師紹介



第一部基調講演



第二部体験発表

